

事例マンガで理解する

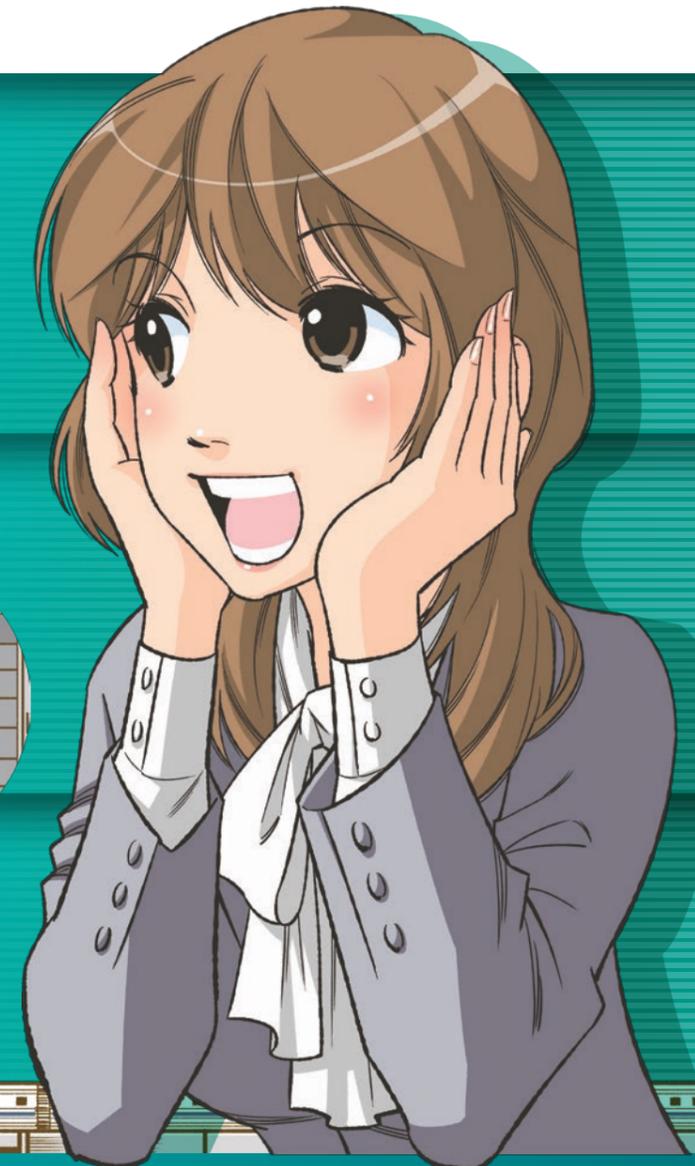
コストと
手間を削減!

バックアップの 基本と最適解

第1話
災害
対策編

第2話
運用
管理編

第3話
バックアップ
管理編



製品詳細は弊社 WEB サイトをご覧ください。 <http://www.arcserve.com/jp/>

arcserve®

すべての商品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または商標登録です。製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
Copyright©2016 Arcserve (USA) ,LLC. All rights reserved.

Arcserve Japan

お問い合わせ
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング

お問い合わせ窓口：Arcserve ジャパン ダイレクト (0120-410-116)
JapanDirect@arcserve.com

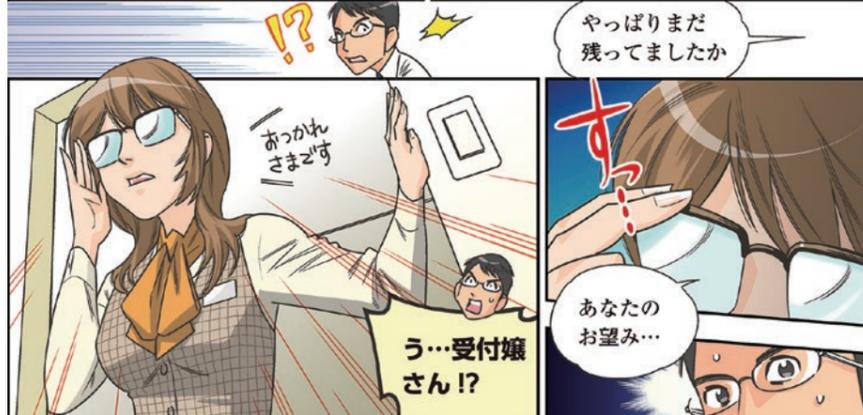
WEB サイト：www.arcserve.com/jp

※記事事項は変更になる場合がございます。 2016年2月現在

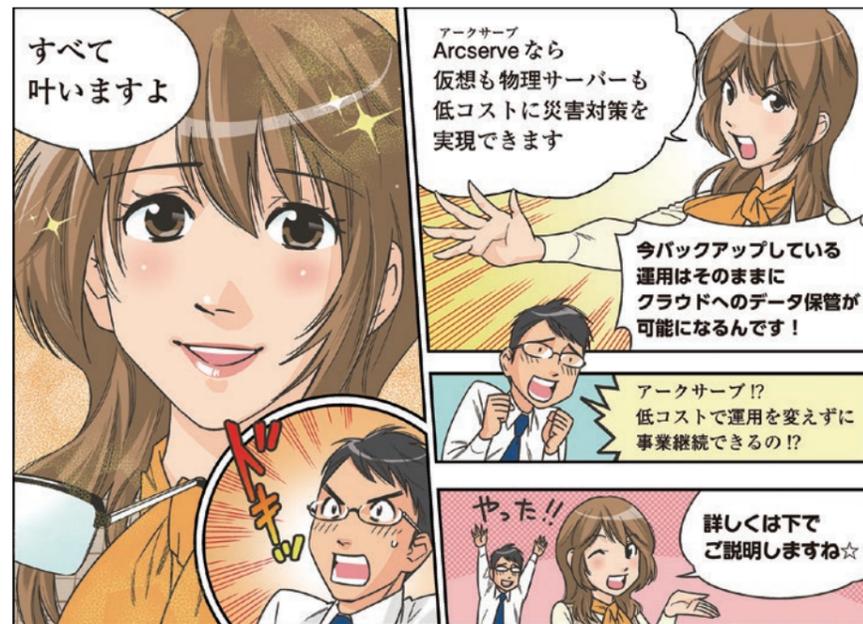
arcserve®

第1話 災害対策編

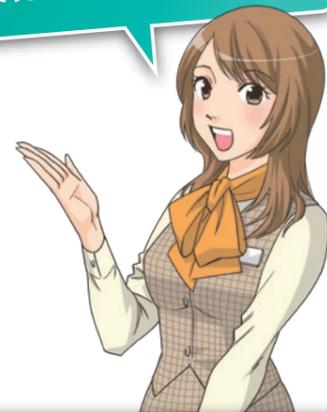
「バックアップだけに」ではキケン!?
運用を変えずに
「災害対策」もする方法



地震や津波、大雨、停電などのさまざまな災害から企業の大切なデータを守るには、社内のバックアップだけでは十分とは言えません。サーバはもとより、社屋自体が被災した場合、データも一緒に失われてしまうからです。一方、複数拠点にまたがった災害対策は多額の投資が必要になります。そこで今、注目を集めているのがクラウドを活用したバックアップです。ただし、クラウドを活用する場合、思いのほか運用不可やコストがかかってしまうことがあります。今回は、こうした災害対策を考えたデータバックアップにおける課題の解決方法をご紹介します。



面倒な災害対策における
データバックアップも
Arcserve シリーズさえ
あれば簡単に
実現できちゃいます!



災害対策はフォルダ指定だけ!?

災害対策を考えて、クラウドを活用したバックアップを検討している麻生さん。しかし、従来は社内バックアップとクラウドを活用したバックアップは別々の手法で行う必要がありました。

その点、Arcserve シリーズでは、一つの管理画面からどちらも簡単に運用できます。バックアップデータの二次保管先にするクラウドオブジェクトストレージをプルダウンから選択して設定を入力するだけで、オンプレミスの重要なデータをクラウドに保管することができます。ニフティクラウドストレージ、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) や Microsoft Azure Storage など国内外の主要なクラウドサービスに対応してい

まずは小規模スタート。細い回線でも低コストに「ファイルコピー」

回線が細い環境で極力コストを抑えたい場合には、アプリケーションで使われるデータや特定の拡張子など、さまざまな条件で絞り込みをした重要なデータだけをクラウドにアーカイブ（格納）する「ファイルコピー」が有効です。ローカルへバックアップした後、スケジュール通りに自動でオブジェクトストレージにコピーします。

Arcserve UDP では、フルバックアップは初回のみ。それ以降の変更分は増分ブロックのデータだけをバックアップします。ファイルコピーも同様に初回のみフルで、それ以降は増分データだけをコピーするため、ネットワークを流れる容量が小さく、負荷軽減とコピー時間の短縮を実現します。

災害対策のため一部のデータだけでなく、バックアップデータをそのままクラウドに保管したいということもありますよね。その場合には、Arcserve Backup の「ステージング」がお勧めです。ファイルコピーよりデータ容量が大きくなるので、バックアップ完了目標時間に応じて回線の帯域を確保してください。オンプレミス環境のディスクやテープを指定すると変わらない運用で自動的に災害対策できます。

日常業務のリストアはオンプレミスからスムーズに!

バックアップの目的は取ることでなく「安全に戻す」ことですよね。そこで、日常業務のリストアは、オンプレミスのバックアップデータから行うことで素早くリストアできます。また、クラウドストレージによっては、下りのネットワーク課金を抑えることができます。災害時にはクラウド上のデータから必要なファイルだけ選択してリストアしたり、すべてのデータをリストアします。たとえば、東京本社の IT 管理者が自席から大阪支店のサーバにファイルリストアすることもできます。

また、Arcserve Backup では日常業務で利用頻度の高い直近のデータをフィルタして優先的にリストアするなど、柔軟な運用が行えます。増分バックアップ・差分リストアによる通信量も最適化されるため、被災時のリストアの際も通信コストを抑えることができます。

高機能な Arcserve シリーズですが、これらはすべて標準機能で提供しており、BCP 対策の追加ソフトや定額オプションメニューなどの追加コストは不要です。

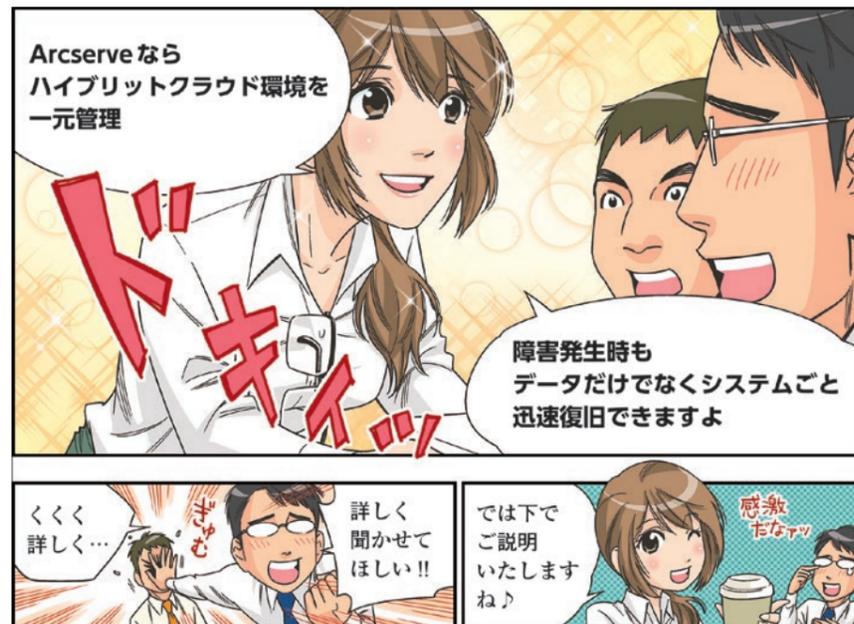
マンガで解説!

クラウド混在環境での一元管理は大変!? ハイブリッド環境を一元管理する方法

第2話 運用管理編



障害発生時の復旧や、データ管理のしやすさの面からクラウド移行を考えても、すべてのデータをクラウド移行するのは困難です。特に基幹系サーバのクラウド移行は、会社全体のシステムの運用方法を変更したり、既存のシステムに影響を及ぼしてしまう可能性があります。だからといって、クラウドとオンプレミス、両方の環境を異なる運用にすると、システム運用管理者の負担を増大させるものになります。今回は、こうしたクラウド、オンプレミスといった混在環境での運用における解決方法をご紹介します。



クラウドとオンプレミス両方の環境での運用もArcserveシリーズなら簡単に一元管理できちゃいます!



オンプレミスの物理と仮想も、クラウドも。Arcserve で一元管理!

従来、オンプレミスの OS の種類や物理 / 仮想の環境ごとに導入のタイミングが異なると、バックアップの運用方法も異なり、システム管理者の負担になっていました。

Arcserve シリーズではオンプレミスの物理・仮想サーバだけでなく、クラウド上の仮想マシンであっても、Windows/Linux が混在する環境を一つの画面から同じ操作性でまとめてバックアップ、リストアすることができます。

設定は非常に簡単です。管理者がバックアップする頻度や手法をあらかじめ設定した「プラン」をサーバの重要度に合わせて割り当てるだけですぐに運用を開始できます。

また、ブラウザ (Internet Explorer/Chrome/Firefox) でどこからでもアクセスできるため、管理者が自席から全国各地のサーバのバックアップはもちろん、リストアも可能になり、運用負荷を大幅に軽減します。

災害時もクラウド上で丸ごと簡単、システム復旧!

パブリッククラウドの主な利用目的の1つは、災害対策です。オンプレミスのサーバが利用できなくなった時、サーバの調達などを待たずにクラウド上でスムーズに業務を再開したいと思いませんか? Arcserve UDP は、標準機能のバックアップデータの「転送」で実現できます。

[バックアップ]と[転送]を組み合わせたプランを作り、それをサーバに割り当てるだけで自動的に災害対策まで実現できます。[重複排除]と[圧縮]もアクティブにしておくと、増分ブロックバックアップで小さくなったデータをさらに小さくするため、ネットワーク負荷も軽減します。

一般的に、災害発生時のシステム復旧は、ハードウェアの修理後、OS やデバイスドライバ、アプリケーションの再インストール、バックアップデータの移行といったように、手順が多く、復旧に時間がかかるものでした。

しかし、Arcserve UDP ではオペレーティングシステム (OS) ・アプリケーション ・データを含めてバックアップしているため、システム全体をすばやく復旧できます。そのため、災害発生時にはハードウェアの修理後、バックアップデータを選択するだけで、簡単にシステムを丸ごと復旧できます。また、元の場所だけでなく、異なる機種への復旧 (ペアメタル復旧) や P2V (物理から仮想) も標準サポートしています。クラウド上のバックアップデータをブートするだけでビジネスを止めることなく業務を継続できるのです。

迅速復旧でビジネス機会の損失を最小化!

Arcserve UDP なら、ちょっとしたファイルのリストアならオンプレミスのバックアップデータからリストアし、本番サーバに大きな障害が発生したときにはクラウド上でリカバリして代替運用することでビジネス機会の損失が最小化できるのです。

マンガで解説!

なぜクラウドでも大容量データアップでも必要なのかな?

第3話 バックアップ管理編



システムのフルクラウド化に伴うバックアップやデータ移行のリスクも Arcserve シリーズ一つでお手軽解決!



クラウド上での世代管理が可能! あ那时的、あのファイルが戻ってくる!

Arcserve UDP は、クラウド上のサーバにオンプレミス同様インストールしてバックアップ運用が可能です。障害発生時、バックアップデータの世代管理をしっかり行っていないと、最新のデータにしか戻ることができません。かといって、必要な世代数分のバックアップデータをクラウド上で管理すると、ストレージの容量課金が膨大になってしまうこともあるでしょう。

Arcserve UDP の「永久増分バックアップ」ならそんな問題も解決できます。まず、保持したい世代数を「復旧ポイント」数で設定します。そして、初回だけフルバックアップを行います。2 回目以降は変更ブロックのみを増分バックアップし続けるため、バックアップデータを最小化しながら、任意の世代数分を保持することができます。「あの時のデータが欲しい!」という場合にも、自分の欲しいバックアップデータだけをリストアすることができます。

また、設定した世代数を超えると、最も古い増分をフルバックアップに自動的にマージしてくれるので、フルバックアップの取り直しの必要がありません。

クラウド上でも簡単リストアが可能! もうクラウド上だから遠隔は無関係

オンプレミスではサーバ障害が発生した場合、サーバ復旧作業にかかりきりになってしまい、欲しいデータを戻すために何時間もかけて復旧作業を行わなければならないことが多々あります。

Arcserve UDP なら、クラウド上のサーバであっても、ファイル単位、フォルダ単位でのリストアが可能です。自席の PC から管理コンソールへアクセスし、エクスプローラでドラッグ&ドロップするだけ。バックアップされたシステム全体をすばやく再構築・または復旧する「ベアメタル復旧」機能も備わっており、OS、アプリケーション、データといったシステム全体を丸ごと元に戻すことも可能です。本社のシステム管理室から全国のスタッフのリストア要求にも素早く対応できます。※ベアメタル復旧 (BMR) 対応可能なクラウドサービスは、サポートサイトでご確認ください。

え、そもそも移行はどうしたら!? それも簡単にできます!

クラウドへのサーバ移行において問題となるのが、ネットワーク回線の問題です。大容量のデータ転送には時間がかかるため、業務で利用している回線を利用してデータ転送を行うと、回線を流れるデータ量が増え、業務に支障が出てしまいます。

その点、Arcserve UDP なら最小限にまとめたバックアップデータをベアメタル復旧することで、すばやくクラウドへデータ移行ができます。また、Arcserve Replication を利用すれば、運用を止めずに回線の帯域幅を曜日や時間帯で制限する機能が備わっているため、ネットワーク負荷を調節しながら大容量データをクラウド移行することができます。

そのほか、月額のパックアップサービスとして、グループ会社にも提供できるお得な MSP プログラムもご用意していますので、詳しくはお問い合わせください。

サーバリプレースのタイミングなどで、システムのフルクラウド化を考えている企業も増えています。その場合、サーバをクラウドに移行するだけでよいと考えてしまいがちです。しかし、クラウド上のサーバにもバックアップソフトをインストールできるのか? 世代管理できるのか? などこれまでオンプレミス環境では普通に行っていた管理が行えない可能性があります。今回は、パブリッククラウドへの移行に伴う「バックアップの落とし穴」とその解決策について解説します。